

就農相談からプロジェクト活動へ

県央農林事務所経営・普及部門

県央農林事務所経営・普及部門では関係機関と連携し、将来の担い手を確保育成する取り組みに力を入れています。新規就農志向者に対しては、実現性のある就農計画を描かせるため、①地域農業状況理解、②栽培技術習得、③就農支援制度利用の視点で支援しています。

新規就農者に対しては、農業学園やプロジェクト活動等の支援を通じ、経営感覚に優れた青年農業者の育成を図っています。

就農志向者に対する就農相談

新規就農志向者に対し、技術習得や、就農構想を具体的に描いていく支援を行いました。そのうち、就農構想が具体化し、就農支援制度の活用を希望する相談者に、関係機関と連携して就農相談会を開催しました。

就農志向者 97名（うち短期営農講座受講 34名）

構想が具体化した者の就農相談会 38名

うち新規就農 19名（就農計画認定 13名）

〃長期研修実施 9名



新農業人フェアで協議会が相談対応

新規就農者の育成講座（農業学園）

就農1～3年目の新規就農者42名を対象に育成講座（農業学園）を開催し、基礎知識の習得と交流促進を図りました。講座は土づくり等の座学、先進地経営事例研修、水戸市卸売市場等の見学の他、農業機械の操作や農畜産物加工等の実習も取り入れました。毎回アンケートを取り、講座の理解状況、今後の講座の希望内容を把握し、以降の開催に反映させました。研修の中では特に「先進地経営事例研修が勉強になった。」という声が多くありました。



農業学園の開講式

プロジェクト活動の支援

管内の農業後継者クラブが経営改善のプロジェクト活動に取り組むよう働きかけ、課題設定、結果まとめの支援を行いました。

その結果、管内の実績発表会では、1クラブがプロジェクト発表、3クラブが意見発表し、各1名が県大会に出場しました。意見発表は優秀賞を受賞し、茨城県の代表として、次年度の関東大会に派遣されることになりました。



地域プロジェクト実績発表会